

8. 正式譲渡（動物を渡す時）

マッチングされた動物を新しい飼い主に引き渡す時には、新しい家族としての一日目が、人にも動物にもよいスタートとなるように適切なアドバイスをしましょう。

事前に連絡しておくこと

家の環境を飼育にふさわしく整えておいてもらうこと、動物を迎えに来るのに必要なものなどを事前に伝えておきましょう。

■ 家の環境整備

特に子犬や子猫の場合は家の中に危険がないかどうかチェックしておいてもらいましょう。

電気コードなどかじられやすいもの、子猫の爪研ぎに使われそうな家具、動物が食すると害がある観葉植物など、子犬子猫の目線で室内を確認してもらいます。

また、トイレ、サークルやケージなど、動物の生活環境を事前に準備しておいてもらいます。

・迎えに来るのに必要なもの

犬であれば首輪やリード、ケージ。猫であればケージを持参するように案内します。

家に連れ帰る途中で逃げられるようなことのないように。

■ 誓約書の記入～書類の引き渡し

誓約書は、終生飼養や不妊去勢手術の実施を誓うものです。

より具体的に、何カ月後までに不妊去勢手術を行うかを定め、報告の義務を誓約書に掲げているところもあります。その後、収容期間中の健康状態や、ワクチン接種の証明書などを渡します。

このとき、医療費（ワクチン代など）を一部を負担してもらうということで、手数料（料金）を定めている自治体もあります。

■ 引き渡し

動物の抱き方や、リードの扱い方など、その場で指導できることがあります。

また、譲渡直後によく見られる行動やその対処法（動物が新しい環境に慣れるまでは無理強いしないなど）をアドバイスしましょう。（40、41ページを参考にしてください）

■ 日付入りのチェックリストを渡す

登録・不妊去勢手術など、譲渡後にやらなければならないことを、日付入りのチェックリストにして渡しましょう。ここでは、迷子になったときの連絡先など最低限の情報も載せておきます。そして、このチェックリストは家族が最も目にしやすい場所「冷蔵庫の扉」に貼っておくように薦めましょう。

家に迎える時は家族全員で……

動物を家庭に迎えるときは、家族全員がそろっているように伝えましょう。

新しい環境に連れてこられた動物は、緊張の中で、少しずつ家の環境に慣れ家族にも慣れてくるものですが、やっと慣れたかなというときに突然見知らぬ人間（単身赴任中のお父さんなど）が帰ってきて、いきなりなでられたりすると非常に怖い思いをし、なつかなくなることもあります。一家の大黒柱も、動物にとっては「後から現れた警戒すべき相手」となりうるのです。

そんなことにならないように、ぜひ家族全員がそろって日に家庭に迎えるようにアドバイスしましょう。動物が慣れるまでゆっくり付き合ってもらえるように、三連休などを上手に利用して「家庭に迎えるスケジュール」を組むのがお勧めです。

参考：日付入り譲渡後のチェックリスト～日付を記入して渡せるように作成しましょう。

犬の場合

1週間後 生後2カ月

1カ月後 生後3カ月

3カ月後

半年後

子犬

- 動物病院で健康診断
- 混合ワクチン接種
- 混合ワクチン接種
- 狂犬病予防接種
- 役所で畜犬登録
- 不妊去勢手術
- 手術済み報告書をセンターにFAX

しつけ方教室

★ なるべく早めに不妊去勢手術を ★

までにするお約束

成犬

- 動物病院で健康診断
- 混合ワクチン接種
- 狂犬病予防接種
- 役所で畜犬登録

1週間後

1カ月後

3カ月後

半年後

愛犬の健康と不幸な犬を増やさないためにも、早めの不妊去勢手術を！！
 皆さんが不妊去勢手術をしてくださることで、救える命がたくさんあります。

迷子になったらすぐ電話⇒〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 ×× 動物愛護センター

猫の場合

1週間後 生後2カ月

1カ月後 生後3カ月

半年後

子猫

- 動物病院で健康診断
- 混合ワクチン接種
- 混合ワクチン接種
- 不妊去勢手術
- 手術済み報告書をセンターにFAX

猫の相談会

室内飼育で愛猫を
 交通事故、感染症、虐待、行方不明から守りましょう！

★ なるべく早めに不妊去勢手術を ★

までにするお約束

成猫

- 動物病院で健康診断
- 混合ワクチン接種
- 混合ワクチン接種
- 猫の相談会
- 猫の相談会

1週間後

1カ月後

半年後

愛猫の健康と不幸な猫を増やさないためにも、早めの不妊去勢手術を！！
 皆さんが不妊去勢手術をしてくださることで、救える命がたくさんあります。

迷子になったらすぐ電話⇒〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 ×× 動物愛護センター

譲渡直後によく見られる行動とその対応方法

新しい環境に慣れないうちは、不安から以下のような行動を見せる動物がいます（特に成犬・成猫の場合）。その場合は、「あせらずに動物が家や家族に慣れるまでゆっくり穏やかに接し、時間をかけることが大事である」ということをあらかじめアドバイスしましょう。



■ 譲渡後によく見られる行動

落ち着きがない・かたまって動かない・うずくまる・非常におとなしい・不安による吠え・うろうろする・過剰に興奮する・脱走しようとする・食欲がない・下痢をする・尿が頻繁になる・フケが増える

■ 対応方法

● 犬自身が安心だと思えるような居場所を作る

サークルで囲った居場所、あるいは狭い場所を怖がるなら、広い部屋の一部に犬用ベッドややわらかな敷物を置く。

● 外飼いの場合、新しい犬小屋に馴染むまでに時間がかかる子もいるので無理強いしない

犬が入ったときに、ガタついたりギーギー音がすると安心できないので確認しておく。

● しつこい触れ合いは避ける

犬の自主性に任せ、犬が自分から寄ってくるのであればなでたりしてもよいが、近寄ってこないようなら、しばらく放っておくほうがよい。

急に抱きしめる、正面から急に近づくなどを怖がる犬も多い。

● 少しずつ仲良くなる

頻繁に手から食べ物を与える、犬が好むことを（おもちゃ遊びや散歩など）を積極的にやってやる。

● いきなり叱らない

まだ信頼関係が築けていない状態で、大声で叱ったり叩いたりすると犬が恐怖を感じ、その人を「怖い」「嫌い」と思い込み、これからの生活に支障が生じる。まずは「叱らずにすむ状況を整えておく」ことが大事。たとえば、犬が入っていい場所と悪い場所をきちんと決め、だめな場所には犬が行けないようにドアを閉めておく、ゲートをつけておくなど。

● 譲渡当日は、いきなり長時間の留守番をさせない

知らない環境で不安が募るので、家に迎えるのは家族が揃って家にいる時間が取れる週末や連休がおすすめ。ただしあまりにもべったり一緒にいると、留守番のできない子になるので、家族全員がほかの部屋に行く、コンビニ程度は出かけるなど、少しの時間犬が一人になる状況を作るといい。当日はずっと一緒にいて翌日から家族全員仕事で日中いない、というような状況は犬には負担が大きい。

● 脱走や迷子に注意！

玄関や門扉は確実に閉めておく。環境に慣れるまでは、散歩中はもちろん室内でも庭でも、万が一を考え首輪を念のために2つ付け、それぞれに迷子札を付けておく。

● 食欲や体調をよく見ておく

これまで施設で食べていたフードを1日分持たせ与えるのもよい。不安から頻繁に尿をする場合、ここからトイレの失敗につながるの、トイレに頻繁に誘導する、外に連れ出すなど配慮する。



■ 譲渡後によくみられる行動

隠れる・隠れたまま出てこない・うすくまる・においを嗅ぎながら探索する・においをつける・抱こうとすると逃げる・触られるとシャーと言ったりして嫌がる・かたまっている・おとなしい・小さな音にも反応してびくっとする・排泄を失敗する・食欲の低下・下痢をする・フケが増える



■ 対応方法

● 猫のいる空間を限定する

猫が落ち着くまでは空間を限定したほうが安心する。一つの部屋だけとかケージの中だけなど、まず安心できる場所を確保してやり、それから徐々に活動範囲を広げる。

また、その中に隠れ場所をたくさん作るとよい（段ボール・猫ベッドなど）。

● 猫が行きやすい場所に、トイレを置く

できれば複数用意。施設で使っていた猫砂と同じものを用意。可能なら自分のにおいがついた猫砂を施設からもらってくる。

● 猫が寄ってくるまでは触らない

いきなり抱き締めたり、大声を出したりしないで、猫から近寄ってくるのを待つ。少し馴染んだらおもちゃなどをやさしく動かしてスキンシップを図ってみる。

● フードを食べるまでには時間がかかると考えていたほうがよい

人が見ている間に食べないようであれば、フードをそのまま一晩置いておく。朝には空になっていることが多い。

● 家の環境整備（猫は上下運動をする）

環境に慣れず、さまざまなことに過敏に反応すると逃げようとして部屋の中を縦横無尽に走り回るので、棚の上を含め環境整備をしておく。猫を叱らなくていい状況を作っておく。

● 脱走に注意！

活発な猫の場合、窓や網戸を開けて出る可能性があるので開閉にくれぐれも注意。

動物が「ここは自分の家だ、家族だ！」と認識すれば不安は軽減します。それまではじっくり時間をかけて仲良くなるよう、アドバイスしましょう。